

告173-2  
(告173-1の反訳)

野村：町民からスキー場をね、存続してほしいという意見がなかったからやったと、そうですね、とかねそういうことね、言ってる記録が残ってる。でもね、実際、売られた後にね、あなた方がJRTとね、頻繁に打ち合わせをしてる、と言いながらね、議事録をひとつも残してない。ひとつも。唯一残してたのがね、彼らがね、国立公園法に触れることをしたときにね、その火消しのためにやったときの議事録だけ。それ以外、いっさい残してない。なんでですか。聞いてるんですね。聞いてるんです。

山内：議事録につきましては、当然、うちが必要と思って残すべきものは残してますし、ただの雑談という話であれば、それは残しませんし。そういう判断のもとで、残していますんで、野村さんが請求されて、無かったということであれば、それはそこまでの話だったということで、うちとしては処理させてもらった。その内容について、一つ一つ、何かもし、内容が分かってるんでしたら、言っただけければ、それについては探してみますけど。野村さんが一方的に要望されてる行政文書の開示ということに対して、あるものはもちろん丁寧に出してますし、ないものはないということで、不存在ということで、まあ、ただ、それだけのことです。

野村：私が2020年にね、スキー場の件で、初めてあなたに話を聞いたとき、もう完全にJRTを擁護する話しをしていながら、その2年前にね、2年前の議事録、これ北海道からもらった議事録の中ではね。彼らはね、2年目にね、もう、「転売したい」という意思表示をね、北海道してますよね。それは、あなた方に渡っていたはずですよ。なぜそれをね、公開しないんですか。

金：野村さん、今日、富岡地域の町政懇談会なんです。ですから、もし、その雪秩父の関係の部分があればね、きちっと、また後日、そういうようなことがあれば、お話をしましょう。

野村：この場では答えない、ということで理解しました。ちょっと別の話でね・・・